

大阪観光局事業の運営に関するトップ会議 議事概要

日 時： 平成 27 年 7 月 7 日（火） 9:00～10:07
場 所： 大阪商工会議所 4 階 401 号会議室
メンバー： 松井 大阪府知事、橋下 大阪市長、佐藤 大阪商工会議所会頭、
森 関西経済連合会会長、村尾 関西経済同友会代表幹事、
福島 大阪観光局会長、溝畑 大阪観光局理事長

議題1 大阪観光局の事業評価について

（※事業評価体制の変更についての説明）

松井知事：

- これまで、観光局の事業評価については、府、市、経済団体のトップで構成する「大阪観光局運営推進協議会」及びその部会である「評価委員会」において審議していたが、3月6日のトップ会議において、大阪観光局と法人の権限・責任を一元化し、今後は、法人において、ガバナンスをきかした仕組みのもと、事業評価を実施していくということが合意された。
- ついて、今後は、法人の理事会・評議員会において、事業評価を行っていただくこととし、これまでの運営推進協議会等については、見直しを行い、今後は、観光局からの報告をもとに、事業計画や成果のほか、運営上の課題等について、忌憚のない意見交換を行う場として、トップ会議を開催してまいりたい。
- なお、本日はその第1回目の会議として開催するものであり、今後も、この場の皆様方をメンバーとして、活発に意見交換を行っていききたいので、よろしくお願ひしたい。

（※観光局における事業評価についての説明）

溝畑 観光局理事長：

- 知事から話しのあった大阪観光局の事業評価について、お手元のペーパーの考え方を記載しているが、大きなポイントは、財団が責任をもって自らの評価を行う、従来は評価委員会において第三者により評価を行っていたが、今後、事業面、組織面を含めて自ら責任をもって評価するという体制にしたい。
- 重要な事項については、今回のようなトップ会議において報告し、アドバイスをいただくとしたい。
- 今後のスケジュールについては、理事会、評議員会のメンバーについては 27 年度をもって終了するので、これを機にメンバーの見直しを行い、評価項目をきっちりと設定し、27 年度夏までにきっちとした評価の仕組みを構築し、9 月に新たな評価制度を承認いただき、12 月に中間評価、28 年度からはそれを踏まえた事業実施を行っていききたい。

【メンバーからの主な意見】

橋下市長

- 観光局においては、法人できちんとガバナンスをきかせてもらうということになったが、理事会、評議員会が形骸化しないようにということは絶対守ってもらいたい。
- 知事時代から今まで様々な団体を見てきたが、多くが形骸化している。公益財団法人で法改正があったので、出席するということになったと思うがそこが全て。
- 今も色んな団体の改革をやっているが、多くの団体で形骸化して出席しない、PDCA が回っていないという団体がほとんどなので、しっかりやっていただきたい。
- （評議員の選出については）トップ会議で全部選出できるとは思っていないが、ある程度リスト化するとかして、トップ会議できちんとみて、評議員を選出するというかたちをとりたい。

佐藤 大商会頭

- 本来ならば、今日の時点で評議員が決まっていなとおかしい。

- ・ 評価の項目をしっかりとしてほしい。定性的な評価もさることながら、きちんとした数値目標を設定してもらって、達成したかどうかという評価をきちんとやってほしい。
- ・ 全体の PDCA が回っているかどうかということについて、5 者懇については、年 4 回はぜひ守ってほしい。

森 関経連会長

- ・ 提案のあった評価方法については、法人として内部でしっかり PDCA のチェック機能を強化してもらうのは賛成で、この方向でやっていってもらいたい。
- ・ ただ、市長が言ったように、評価のための評価になってはいけないので、PDCA がまわるような仕組みを併せて考えていただきたい。

溝畑 観光局理事長

- ・ （評議員等の見直しについては）27 年度で任期が終了となるので、その時点で今の主旨を踏まえて見直しを行いたい。ジャズの件も含めて、理事と評議員の関係など、ガバナンスがきいていなかったというのはご指摘のとおり。
- ・ 役員会、株主総会と位置づけられるような理事会、評議員会にしないといけませんが、そうしようと思えば、きちんと責任をもって理事等になっていただくというのが筋だと思う。

議題2 大阪観光局事業の今後の方向性について

（※事業の今後の方向性について説明）

溝畑 観光局理事長：

- ・ 大阪の成長戦略の柱にも位置づけられている観光について、関西全域を巻き込んだかたちで、連携広域化というものを進めていきたいということと、企画・広報・マーケティングを強化していくことを大きな柱としたい。
- ・ 主な重点課題の「機能強化」のマーケティング・広報という点については、早速、日本銀行、日本政策投資銀行と政策的なマーケティングについての会をつくっている。
- ・ 関西広域観光については、先般、観光庁で広域観光周遊ルートが設定されたが、他の地域との連携により、周遊できるコースをつくっていきたい。
- ・ 個別課題としては、まだまだ観光における一人当たりの消費額が少ない。グルメ、ショッピング以外にスポーツ、医療、文化、芸能、これにプラス、ナイトエンターテインメント、特に、夜 9 時以降にグルメ、ショッピング以外のコンテンツが乏しいこともあり、ブランド化していきたい。
- ・ それ以外の課題としては、CIQ の問題、ホテル不足、観光バス対策、MICE の現状と課題と、これに併せて IR、推進法案が上程されているが、これにむけてのスピーティな動きが求められるのではないかな。

【メンバーからの主な意見】

松井知事

- ・ 民泊については、ゴミの問題や、近所との争いがあった場合はどうするのかなどの指摘があり、一度、府議会で否決されたが、これについては、悪質事業者を法的に排除できるよう、国に依頼しているところ。近々、法改正できれば、改めて 9 月議会へ提案したい。
- ・ 宿泊施設が不足しているのは大阪市内だが、大阪市内の民泊についての権限は知事にはない。市議会に理解してもらわなければいけないので、経済界の皆さんにも協力をお願いしたい。
- ・ IRについては、我々だけでは議会が動かないので、経済団体が一丸となってやっていくという意思表示をしてもらおうと、議会に対して我々も言いやすくなる。
- ・ 多言語化を経済界に所属している店にも広げていただけるよう号令をかけていただけたら。多言語化はまだ不十分。経済団体に所属している店等にどんどん声をかけていただきたい。

橋下市長

- ・ MICE にしても IR にしても、市議会としては否定的。経済界の方々にもっと市議会に対する口

ビー活動をしっかりやっていただきたい。大阪市議会というところが、組織運営の根幹の部分でもあって、ここへの働きかけがないとなかなか動かない。ここを何とかしないと。

- 今の会議場にしてもインテックスにしても、敷地の面積がないので拡張は無理。統合型リゾートの方に会議場も展示場も併せて民間でつくってもらおう方向性で舵を切ろうというのが府市の立地推進会議での方向性。
- 会議場と展示場だけをつくってくれる事業者はなかなかいない。カジノ施設が入らないと、収益がまわらない。カジノ施設で黒字を出したうえで、会議場等をまわしていくということになる。
- 既存の施設を使いながら、積極的にやっていくということは折り合いながらも、カジノ施設を含めないことには、大規模な MICE を行ううえで、ビジネスモデルとして成り立たない。
- 横浜では官民あげて強かに推進している。経済界では、同友会は積極的だが、関経連、大商とは方向性がきちんとは合っていないので、経済界の皆さんと意思統一をしながら働きかけをしないといけない。
- ビジョンが見えないとメディア等からも指摘されているが、大阪の成長戦略は既にしっかりある。その中で既に MICE、カジノ、統合型リゾートを位置づけている。経済界と認識を共有できていないのであれば、大阪の成長戦略の中で大阪がどういう方向性をめざしているのかについて、しっかり説明をさせていただきたい。
- カジノについては、賛否両論あるが、大阪としては否定はせず、考えて進めていくということ、大商、関経連の方からも、市議会に働きかけていただくと、市議会の意識も変わるではないか。
- バスの駐車場の件は、大阪市が頑張ってくれて、(乗降場を) 5 台分増やした。もう 1 つ、新今宮の駅前の市有地を使ってバスターミナルをつくりたい。そこに、民間事業者を集めたいと考えているので、観光局に協力いただきたい。
- 評議員については、トップ会議で追認するのではなく、選択できるようにしてほしい。物分りのいい人を集めるのではなくて、厳しくきちんとチェックしてもらえる人を集めるように。

佐藤 大商会頭

- ホテルの供給不足は 2、3 年もすれば解消すると思うが、現状として不足しているので、旅館の活用等でしのいでいく必要はあると思う。
- IR は、MICE という観点から、今の大阪国際会議場をどうするのか、展示場を中之島かインテックスの周辺で拡張するのか、これを早く決めるべき。今の国際会議場は展示施設が足りない、だから競争しても負けてしまう。コンベンションホールや展示場をしっかり充実させて、あとはカジノを、という順番でいかなないと。会議場の整備にも力を入れてもらいたい。
- 先行して会議場を整備するならば、はっきりそうと示すべき。先にカジノができてから、後で会議場等ができるみんな思っている。シンガポールでも会議場等が全て完璧に揃った後、集客施設として必要なカジノをつくっている。
- シンガポールは小さい都市国家であるので、周辺に負けられないためにどうしていくのかということが考えられている。大阪もこれからどんな都市にしていくということを示さないといけない。
- シンガポールみたいな国をめざす、その中で IR が必要だというような組み立てがまだできていない。
- こういう議論を今後もぜひ 5 者懇でお願いしたい。

森 関経連会長

- 民泊については全く賛成。
- 観光局が将来的に関西を見据えていただくというのは結構なことで大いに歓迎。来年 4 月には関経連、広域連合、関西地域振興財団の 3 者による関西広域観光の動きがあり、福島会長にリードしてもらっているので、観光局の方向性と大きく齟齬はないと思うが、大阪、さらには関西全体が盛り上がるように、うまく連携してもらいたい。

村尾 同友会代表幹事

- 溝畑理事長の説明については、大いに同感。特に、MICE、IR。ただ、MICE、IR については(府市の) 予算が削減された。政府では、もはや実施法の段階の作業を着々と進めていると聞いてい

るので、横浜など、他都市においていかれるのではないかという強い危機感を持っている。

- ・ 決してカジノ一点ではなく、大きな意味での MICE、IR という観点でもう一度、大阪、関西が一体となって、機運を盛り上げ、具体的な構想を進めていくという作業が必要。

溝畑 観光局理事長

- ・ シンガポールでは、市長が言ったように、収益性を確保する必要があったため、カジノで収益性を担保したうえで、どういう施設を付加させるかという構想であった。
- ・ 府、市、経済界も、MICE 施設のあるべき姿を分析しながら、世界競争の中でどういうものをつくっていくのかという議論をきちんとして、早々に国へ申請しないといけない。
- ・ 前提となる IR 施設と、交通インフラ等の周辺を含め、どうしていくのかということについて、法案の動向をみながらスピーディに取り組んでいくべき。

福島 観光局会長

- ・ 関空の会長として。先ほどの説明で関空の出入国の時間が延びているということについては、実際、観光客の急増に受入環境の整備が追いついていないのが現状。
- ・ 関空としては、出国するときの保安検査場は 14 箇所あるが、7 月に 4 箇所増やし、来年 1 月にはさらに 5 もしくは 6 箇所増やす予定。
- ・ 入国時にはひどいときで 3 時間待ちとなっており、大変苦情をいただいている。法務省の入国管理局がこの秋に 40 名ほど増員するということだが、まだまだ足りない状況。国に更なる増員をお願いしたいと考えており、ご支援賜りたい。

報告事項 大阪国際音楽フェスティバル関連事業について

福島 観光局会長

- ・ 昨年開催したインターナショナルジャズデーについて、関係者の皆様に多大なるご迷惑ご心配をおかけして、この場をおかりした改めてお詫び申し上げます。
- ・ 3 月 6 日の府、市、経済団体によるトップ会議において、本事業についてきちんと検証すべきという指摘をいただいたため、今回、整理をした。皆さんにご説明し、ご理解を賜りたい。
- ・ これまでの経過について、実行委員会を組織し、事業を実施したが、実行委員会形式で実施したことにより、ガバナンスやチェックが効かなかったことが最大の問題だと認識。
- ・ さらにこれに加えて、韓国・セウォル号沈没事件などが重なり、予定していた収入が得られず、多額の収支不足が発生。このため、法人への追加負担及び実行委員長に対する個人負担を求めることとなった。その詳しい内訳は「2 実行委員会における事業収支」に記載。
- ・ 事業自体は「3 事業結果概要と効果」にあるように、多数の参加があり、世界各国でも取り上げられ、大阪の魅力発信に貢献したと考えているが、本事業による多大な赤字の発生や、法人としても、多額の追加負担を行うこととなり、重ねてお詫びを申し上げます。この追加負担については、府市からの負担金以外の法人の資金で対応させていただく。
- ・ 今後、二度とこのようなことをおこさないという決意のもと、改革案として、4 月から法人と観光局を一本化し、公益財団法人大阪観光局を発足させ、さらに常勤の理事長を置いたところ。
- ・ 責任と権限を明確化させ、ガバナンスの効く組織体制として、スタートをさせていただきました。
- ・ また、同時に新しい理事長、専務理事を迎え、経営会議を設置し、PDCA を回していくことや、先ほど説明した事業評価制度を設けるなど、改革を行っていく。
- ・ 法人としては、今回の件を真摯に受け止め、大阪の観光の発展のため、より一層の役割を果たしていきたいと考えている。皆様のより一層のご指導、ご鞭撻を賜りたい。